

中部地区の社会教育をつなぐ、ひろげる

わくわく中部



中部教育局社会教育担当だより 令和5年9月5日発行

9月の主な行事予定

- 9月11日(月)中部地区社会教育担当者会
- 9月19日(火)中部地区人権教育懇談会③
- 9月20日(水)子育て・家庭教育支援員養成講座③
- 9月28日(木)人権教育プログラムファシリテータースキルアップ研修会②
- 9月29日(金)鳥取県地域コーディネーター養成講座④

コミュニケーションを再考する ファシリテーションの方法と実際

先月、大分大学の清國先生を招聘し、「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテーターフォローアップ研修会と「第3回地域コーディネーター養成講座」を、二日間に渡って開催しました。

フォローアップ研修では、良好なコミュニケーションを考える上で、「いい人」の最低限スキルは、「聞き上手な人」。まずは、「相手を知る」ことから始まるコミュニケーションが大切。「分かり合えない」ことを超えて連携・協働できるかがこれからの世の中を創る上で重要。

また地域コーディネーター養成講座では、ファシリテーションの基本は、①場のデザイン②発言しやすい雰囲気づくり③人間関係を築く④一定の成果を導くこと。ファシリテーターの役割として、参加者が学んだ成果を社会に生かす、参加者の学びの質を高め変容につなぐ、そして人と人をつなぐことがあげられる。今後、「義務」と「責任」とのバランスが重要となり、自立と協働がキーワードとなると話されました。

子育て支援のための 傾聴と観察

8月10日に第2回子育て・家庭教育支援員養成講座が開催されました。前半は、鳥取市こども家庭相談センター 森田所長の講義でした。「大丈夫？」という声かけでは、「大丈夫です」と返されがち。重要なのは「決めつけないこと」、伴走しながら共に関わっていくことだと、事例を交えながら話されました。

後半は、公認心理師・臨床心理士の小林幹子さんの講義でした。「支援」のイメージは、支援する人・される人になりがちだが、支援というより「応援する」イメージ。そして、親子にとって安心・安全な場の提供が大切。傾聴は、「耳を傾け」、「目で注意を払い」、「心を配る」ことが大切。また、「話を聞くということ」は「教えないこと」。あなたが教え始めれば、相手は黙ってしまうなど、もっと聞きたい内容がたくさんありました。



「参加型学習」充実のためのマインドとスキル

8月に人権教育アドバイザー及び市町村人権教育担当者等研修会が開催され、オフィスピュアの高崎恵さんに、ご講義いただきました。

ワークショップは、参加体験型の学びや活動であり、コミュニケーションの場である。「参加することが、学びである」という学習観だが、基盤は「人権」。学習者に知識を教えるのではなく、これまで発揮されていなかったチカラを引き出し、自分への信頼と尊厳を回復するための場である。また、ワークショップの3要件は、「誰でも貢献できる何かを持っている」「結果よりプロセスを大切にする」「安心な場の保証」。

とてもパワフルで、もう一度聞き直したい内容がたくさんありました。



ちゅうぶくん

～〇〇の秋がやってきた！～
by石ちゃん



ちゅうぶ君、一学期が始まりました。暑さに負けず、勉強にスポーツに頑張るぞとやる気満々！他にも何かやりたい様子。

〇〇の秋って
気になるだら！
この秋、何に
がんばろうかなあ？

お兄ちゃん
何考えてるの？

- ☆食欲の秋
- ☆読書の秋
- ☆スポーツの秋
- ☆芸術の秋
- ☆睡眠の秋

これだわ！



ちゅうぶ君、季節の食べ物に囲まれて、満面の笑顔！

お兄ちゃん、食べ過ぎには注意だぞ！



ちゅうぶ君、食欲の秋は天国。体もちいとして大きくなってきた。でも、悔いはナシ。

俺、何かに似てきてない？

この際だけ、伯桜鵬みたいに お相撲さんに笑



もっと知り隊！

住みたい田舎ランキング1位の秘密は！

今回は、宝島社が行った「2023年版住みたい田舎ベストランキング」で1位になった琴浦町の秘密をさぐるべく、独自調査を行いました。教育・子育て・福祉は当然ながら、3つの項目を選びました。その1は「住みよい環境（移住のしやすさ）」、「移住ナビ」を使った360度内覧システムです。移住者は、お試し住宅で最長1か月まで借りることが出来ます。その間に、その2である「就農支援や起業支援」を受けることも可能です。その3は「琴浦町の魅力」です。牛骨ラーメンを始めとするグルメストーリーの「食」、さらに鳴り石の浜や船上山、熱波師のいるサウナに代表される「自然」。そして独自の取組である、移住者にとっても地元民にとっても使いやすい「補助金システムの本化」や「メディア戦略」がありました。調査をとおして、他町も子育て世代・若者世代・シニア世代にそれぞれ地域の特色を生かした取組がなされていることがわかりました。これからの「魅力あふれる中部」にしていききたいですね。



【あとがき】

今年は、ようやく大観客に囲まれた夏の甲子園が帰ってきました。高校球児だった私にとっても憧れの聖地であり、当時高校生だった息子たちも、県外県内それぞれの高校で聖地を目指していました。残念ながら夢は叶いませんでしたが、今年の夏は二人の母校が揃って甲子園出場を果たしました。久々にOBとしてアルプススタンドで応援しながら、同級生たちとの再会を楽しんだことでしょう。今年の夏の思い出が、また一つ増えました。

中部教育局 社会教育担当係長 徳永正樹

電話 0858-23-3253

FAX 0858-23-5203

E-mail tokunagama@pref.tottori.lg.jp

